三原市立本郷小学校　第５学年　道徳科学習指導案
教材名：「のりづけされた詩」

１　日　　時　令和２年９月 17 日（木）第５校時（13：00～13：45）
２　場　　所　５年１組教室
３　学　　年　５年１組（男子 17 名，女子 12 名　計 29 名）
４　主 題 名　自分の心にせいじつに　A　正直・誠実

５　本時のねらい　本にある詩を写して自分の詩として提出してしまった和枝が，先生に打ち明けた時の心情を考えることを通して，誠実に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

６　教 材 名　「のりづけされた詩」（「小学道徳　生きる力５」日本文教出版）

７　主題設定の理由

（１） 主題について

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「A　主として自分自身に関すること」の（2 正直・誠実）の５・６年生指導内容項目の中で，「誠実に，明るい心で生活すること」を取り上げている。

健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには，自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また，自己の過ちを認め，改めて生活していく素直さとともに，何事に対しても真面目に真心を込めて，明るく楽しい生活を心がけようとする姿勢をもつことが大切である。

過ちや失敗は誰にでも起こりうることである。そのときに，ともするとそのことで自分自身が攻められたり，不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり，ごまかしたりすることがある。しかし，そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎにすぎず，真の解決には至らない。このことによって，他者の信頼を失うばかりか，自分自身の中に後悔や自責の念，強い良心の呵責などが生じる。

それらを乗り越えようとすることが正直な心であり，自分自身に対する真面目さであり，伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさである。このような誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが重要である。

人は社会的な存在であり，家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。よりよく集団生活を送るため，基本的なマナーや礼儀作法などのきまりを，一人ひとりが守らなければならない。さらに，自分のことだけでなく他者のことも大切にした上で，やらなければならないことを進んで行っていくという考えを育成することが大切である。

児童の発達段階においては，自分自身に対する誠実さがより一層求められる。特にその誠実さが自分の内面を満たすだけではなく，例えば，他の人の受け止めを過度に意識することなく，自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されるように配慮する必要がある。そのことが，より明るい心となって行動にも表れ，真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にすることで自己を向上させることや自信にもつながっていく。

【内容項目とその系統】

低学年 A－（２）うそをついたりごまかしたりしないで，素直に伸び伸びと生活すること。
⇨
中学年 A－（２）過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること。
⇨
高学年 A－（２）誠実に，明るい心で生活すること。
⇨
中学校 A－（２）自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

（２）児童観

（３）指導観

本教材は，学級文集で詩を載せることを友達と約束してしまった和枝が，本からぴったりのフレーズをみつけ，それをそのまま書き，提出してしまったが，思い直し先生に相談する話である。

和枝の「いい詩を書きたい」という純粋な思いに，共感できる児童は多い。そこで，そのことを打ち明けたときの思いを考えることを通して，誠実な生き方について考えを深めることができると考える。

指導にあたっては，主体的な学びをしていくために，導入時に自分自身の生活場面をふりかえり，自分の心の中にある弱さを見つめ，本時のねらいに対する課題意識をもてるようにする。さらに，展開では自己内対話をしながら自分の考えを道徳ノートに書かせる。その上で，改めて具体的な生活場面を想起させ，実践意欲を高めていく。

対話的な学びをしていくために，和枝の葛藤する姿を通して，「正直・誠実」について，自分に対しても正直であるという姿や他の人に対しても正直であるという姿の異なる視点で考え，多面的・多角的に考えさせていく。また，全体で話し合うだけでなく，状況に応じてペアトークを取り入れて，友達の意見にふれさせる。

深い学びをしていくために，和枝の思いに共感的理解を深めていくように発問を構成し，自我関与を中心とした学習の展開としていく。中心場面以降の発問については，今までの体験場面を想起させながら，終末で導入時の話題をもとに道徳的価値について新たな発見や学びをふりかえらせていく。

◎研究テーマとの関係

【研究主題】

「誰もが学ぶ喜びと自信がもてる，主体的・対話的で深い学びの創造」

〇<u>主体的な学び</u>

・導入時に道徳的問題にふれ，課題意識をもつ。

・自分自身との関わりでとらえ，考える。

・新たな学びを自覚する。

〇<u>対話的な学び</u>

・協働し，対話する学び。

・多面的・多角的に考える。

〇<u>深い学び</u>

・教師の指導方法の工夫により，新たな気づきや変容がある。

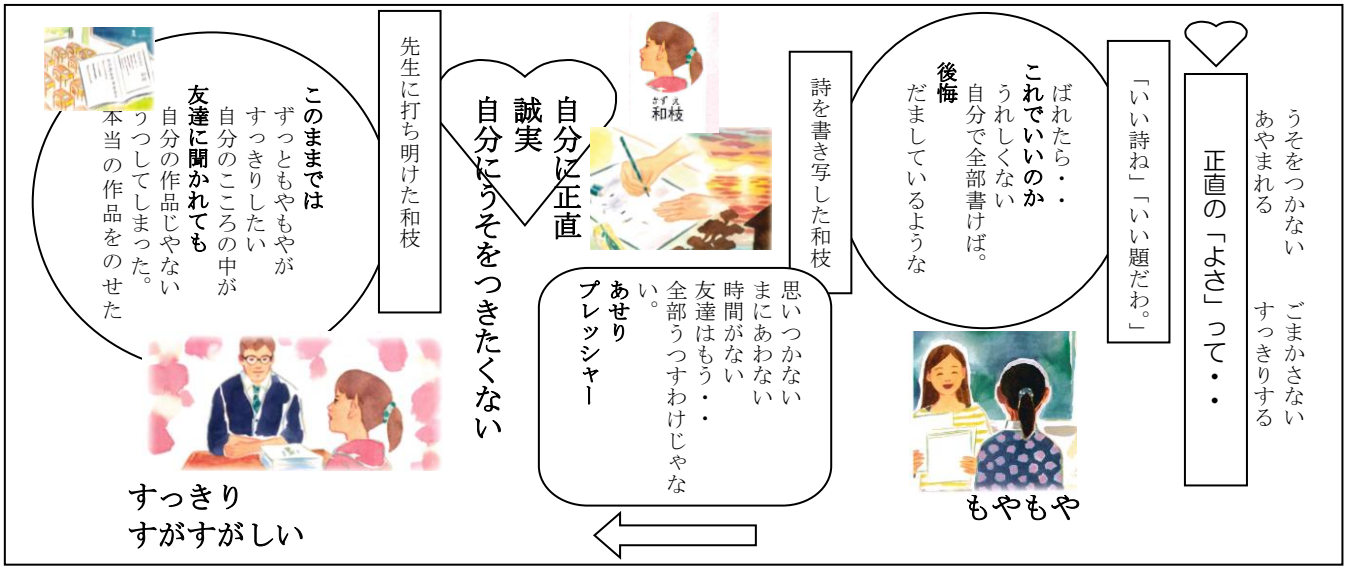
８　本時の展開

（１）準備物

場面絵　道徳ノート

（２）学習の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 （※評価）
導入	１　「正直」についての今までの自分をふり返る。	○「正直」についてあらためて振り返る。 「正直」ってどういうことなのだろう。 「正直」に言えないときもあったかな？ ・うそをつかない。 ・素直にあやまれる。 ♡「正直」の「よさ」をあらためて考えよう。	○アンケートの結果も紹介していく。 ㊟具体例をもとにして今までの自分を振り返りながら，他者の意見と自分の思いと比較し，「正直にいえない自分」があることをみつめ課題意識をもつ。
展開	２　教材「のりづけされた詩」を呼んで話し合う。	どうして和枝さんは，本に載っている詩を書き写してしまったのでしょう。 ・書くことが考えつかない。 ・このままだと間に合わない。 ・わたしは詩が上手だとみんなに思われている。 ・和枝さんに負けたくない。 ・写してもだれにもわからないだろう。 「いい詩ね。」「いい題名だわ。」と言われた時，和枝はどんな気持ちになったでしょう。 ・ばれたらどうしよう。 ・うれしい気持ちになれない。 ・本当にこれでよかったのだろうか。 ・やっぱり自分の力で書けばよかった。 ・みんなをだましているような気持ちになる。 ↓ もやもやした気持ち 和枝はどんな気持ちから自分がしたことを先生に打ち明けたのだろう。 ・ばれたらおこられるかも。 ・このままではずっともやもやする。 ・友達をうらぎりたくない。 ・正直に言ったほうが自分のためになる。 (のりづけされた詩を見て，友達から何か聞かれるかも・・。どうこたえる？) ・自分の作品じゃない。 ・写してしまった。 ・ごまかした作品をのせるより，本当の自分の作品をのせたかった。 ↓ すっきり，すがすがしい気持ち	○臨場感をもち，自我関与できるように，読み語りで教材提示をしていく。 ○経験を重ね合わせながら人間的な弱さについて共感させ，考えていく。 ㊟ごまかしやあせりなど経験をふりかえりながら，共感する部分を問い，挙手により意思表示する。 ㊥「褒められたのに，なぜうれしくないのだろう。」と補助発問をし，心にひっかかりがある和枝の心情を、多面的･多角的に考えられるようにしていく。 ○和枝の道徳的価値の変容が明確になるように構造的な板書にしていく。 ㊥和枝に自我関与しながら道徳ノートに考えを書く。 ㊥自分の決断に清々しさを感じている和枝の気持ちに共感させながら，多面的・多角的な話し合いを行う。 ㊥補助発問をし，「ばれる。ばれない」だけではなく，正直に言うことで自分にうそをつきたくなかった和枝の誠実さを考えさせる。 ※「のりづけされた詩」の教材を通して気づいたことをもとに，誠実に行動することが明るい生活につながることを考えることができたか。（道徳ノート　発表　見取り）

終末	3　教師の説話を聞き，新たな学びを書く。	今日の新たな学びを書きましょう。 ・「自分の心に正直にしたい」・・・そこには誠実に生きようとする心の芽生えがある。	㊥㊦具体的な生活場面を想起させることで，実践意欲を高めていく。 〇新たな学びを道徳ノートに書く。 〇自分の中にある誠実な心を感じながら余韻をもって終わる。

9　板書計画